令和４年度　　学　校　評　価　【　計　画　書　報　告　書　】　　加賀市立橋立中学校　校長　紙井　かおる　印

| 学校教育目標 | 経営目標 |
|---|---|
| 「心豊かにたくましく　自らの生き方を創造する児童生徒の育成」 | (1) 授業改善のために主体的に研究・研鑽し、確かな学力の向上に努める。<br>(2) 温かで優しい心を育成し、互いの良さを認め合える人間関係づくりに努める。<br>(3) 基本的生活習慣を身につけ、健やかな体の育成に努める。<br>(4) 小中併設校の特色を生かした連携の取組を深め、学校・家庭・地域との連携に努める。<br>(5) 組織的・機能的な学校運営に努める。 |

| 評価の項目 | 今年度の重点目標 | 具体的取組 | 主担当 | 現状及び取組状況 | 評価の観点 | 実現状況の達成度判断基準 | 備考 | 判定結果（中間） | 判定結果（最終） | 今後の改善策 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ①教育課程・学習指導 | 家庭学習の習慣化と内容の充実を図る。 | 家庭学習で各教科からの課題や毎日の課題に取り組ませるだけでなく、自主的な学習も促す。また、学習時間を記録し生徒が学習の積み重ねを確認できるようにする。 | 学習指導部<br>教務主任 | 課題の提出はほとんどの生徒ができているが、課題以外での自主的学習が少ないため、総じて学習時間が少ない傾向にある。SNSやネット、ゲームに多くの時間を割く生徒もいる。 | 【成果指標】<br>家庭学習の時間が1時間以上である。 | 家庭学習の時間が1時間以上である生徒が<br>A＝80%以上　B＝70%以上<br>C＝60%以上　D＝60%未満 | 生徒アンケート<br>（1・2学期末） | C | D | 1学期では3学年の平均が62%であったのに対して、2学期は55%と落ち込んでいる。それに対してメディアやゲームの使用時間は2時間以上使用している生徒が71.5%から75%と3.5%増えている。昨年度と比較して学習時間を増やすための取り組みが弱かったことが原因と考えられる。次年度は学習時間をある程度生徒に意識させた取り組みを行いたい。 |
| | 主体的・対話的な学習や振り返り活動を通して生徒が「わかる」と実感できる授業づくりを推進する。 | 授業で学び合いのできる場や振り返りの時間を設定する。生徒調査をもとに授業改善に努める。 | 学習指導部<br>研究主任 | どの教科においても学び合い・振り返りができる授業づくりを行っている。 | 【成果指標】<br>生徒がわかる、できるを実感できている。 | 授業でわかった、できたと感じている生徒が<br>A＝90%以上　B＝80%以上<br>C＝70%以上　D＝70%未満 | 生徒アンケート<br>（1・2学期末） | B | B | 生徒アンケートによる肯定的回答が1・2学期とも80%台だったため、B判定とした。しかし、「わかった」よりも「できた」の回答が下回っている教科も見られる。わかるからできるまでには、さらに手立てや場が必要となる。毎日の授業の中でいかに反復させる時間をとるかが課題である。 |
| ②生徒指導<br>※いじめの未然防止 | いじめなど嫌なことがなく、安心した学校生活を送れる環境を整える。 | 昼休み等に当番の教職員が巡視を行い、未然防止に努める。また担任を中心に個人面談を多く行う。 | 生徒指導主事 | 生徒間のトラブルや生徒指導上の問題も少ない状況で落ち着いている。 | 【成果指標】<br>学校は安心して過ごせる場所だと生徒が感じることができる。 | 学校は安心して過ごせる場所だと答えた生徒が<br>A＝100%　B＝90%以上<br>C＝80%以上　D＝80%未満 | 生徒アンケート<br>（1・2学期末） | C | C | 生徒アンケートで肯定的な回答は全体で80.4%であったことから評価はCとした。1学期の結果と比較したときに同じC判定ではあるが、否定的な回答の割合が全体（特に2年生）として増えている。そのため、これまでに行っている取り組みを継続すると共に、否定的な回答をした生徒を把握し、生徒が悩みを相談しやすい体制を整えていきたい。 |
| ③キャリア教育・進路指導 | 系統的な学習により、自分の適性、可能性を知り、主体的に進路を決定する力を養う。 | 指導計画に合わせ、進路調査や進路適性テストなどを行い、その結果や過程を通して、保護者とともに将来について考える機会をつくる。 | 進路指導 | 成果指標は向上しているが、保護者と生徒の評価に差が見られる。 | 【成果指標】<br>自分の将来の生き方について考えることができた。 | 自分の将来について考えることができたと答えた<br>A＝生徒・教職員が90%以上,保護者が80%以上<br>B＝　〃　80%以上，〃　70%以上<br>C＝　〃　80%以上，〃　60%以上<br>D＝C基準未満 | 生徒アンケート<br>教職員アンケート<br>保護者アンケート<br>（1・2学期末） | C | D | 教職員が100%，保護者が68.4%と中間に比べて向上したが，生徒アンケートが75.0%とダウンし，D判定である。生徒アンケートが90%を越えないのは今年度が初めてである。3年生はほぼ変化がないが，1年生で10ポイント，2年生で30ポイントダウンしている。進路だより等も全学年で発行したが，効果は見られなかった。全教科で考えさせることが大事ではあるが，総合の時間からわくワーク体験がなくなっている状況でもあるので，道徳や特別活動の時間で意識的に将来について考える教材を増やしていく必要がある。 |
| ④保健管理 | 自分の健康状態に関心を持ち、規則正しい生活を実践できる力を育てる。 | 1学期、2学期、各1週間ずつ元気アップ週間を設定し、生活習慣の改善に向けて取組む。 | 保健指導 | 生活習慣の目標については、ある程度達成できているが、寝る直前までスマホやタブレットを使用している生徒が約半数いる。そこで今年度も、メディア使用の目標時間を決めさせ、元気アップ週間で、取り組ませる。 | 【成果指標】<br>自分の目標を立て、それを意識して取組むことができる。 | 自分の生活習慣の目標を意識できた生徒が<br>A＝80%以上　B＝70%以上<br>C＝60%以上　D＝60%未満 | 生徒アンケート<br>（1・2学期末） | B | B | 全体では1・2学期とも肯定的な回答が70%台だったためB判定とした。しかし、学年が上がるにつれ肯定的な回答が増えており、3年生は87%だった。生活習慣で最も悪いのが、「寝る直前はスマホやタブレットなどの電子機器を使わない」だが、できていないと答えた割合は、1学期は70%だったが2学期は49%に減っていた。今後も、元気アップ週間や保健だより、委員会活動を通して啓発を続けていきたい。 |
| ⑤安全管理 | 危機管理体制の整備に向けた取り組みを充実させ、安心・安全な学校づくりを推進する | 各種危機マニュアルに基づく訓練や研修を行い、職員の危機対応能力の向上を図る。 | 安全担当<br>教頭 | 避難訓練や防犯訓練を着実に行うとともに、事前の職員の危機対応に関しての研修の充実が必要である。 | 【成果指標】自己評価<br>危機を想定した研修を行い、危機対応力が身についた。 | 自分自身の危機対応力が身についたと感じる教職員が<br>学校は、事故などがないように安全に配慮していると思う保護者が<br>A＝90%以上　B＝80%以上　C＝70%以上<br>D＝70%未満 | 教職員アンケート<br>保護者アンケート<br>（1・2学期末） | A | A | 教職員アンケート及び保護者アンケートともに肯定的な回答が90%を超えていたためA判定とした。<br>今後、火災想定の避難訓練においては、休み時間での訓練を行うなど、あらゆる状況に対応できる訓練が必要である。また、不審者に対する教職員の対応能力を高める研修が求められる。 |
| ⑥特別支援教育 | 特別な支援が必要な生徒について理解を深め、個に応じた支援を行っていく。 | 職員会議で生徒の情報交換を行い、必要に応じて専門相談等を通して検討し、実践していく。 | 生徒指導部<br>特別支援教育コーディネーター | 情報交換や共通認識の場がもたれているが、引き続き、支援方法を検討し実践していく必要がある。 | 【成果指標】<br>情報交換や専門相談等を通して、個に応じた支援に生かすことができた。 | 個に応じた支援に生かすことができたと答えた職員が<br>A＝90%以上　B＝80%以上<br>C＝70%以上　D＝70%未満 | 教職員アンケート<br>（1・2学期末） | A | A | 1・2学期とも肯定的な回答が100%だったため、A判定とした。生徒に関する情報交換を日頃から密にするとともに、特別な支援が必要な生徒については、必要に応じて専門相談等を通して理解を深め、支援方法を検討し個に応じた支援を実施していく。 |
| ⑦組織運営・業務改善 | 職員の多忙化改善を図り、時間外勤務時間の更なる縮減を目指す。 | 時間外勤務時間縮減に向けて、業務改善の工夫及び業務の平準化を図る。 | 教頭 | 個々の職員が抱える業務が多く、依然として一ヶ月の時間外勤務時間が80時間を超える職員が見られる。 | 【努力目標】<br>時間外勤務時間が80時間を超える職員ゼロを目指す。 | 長期休業を除く平均の時間外勤務時間が80時間以下の職員が<br>A＝100%　B＝90%以上<br>C＝80%以上　D＝80%未満 | 勤務時間調査<br>（毎月） | D | C | 期休業を除く平均の時間外勤務時間が80時間以下の職員が80%以上であったためC評価とした。時間外勤務は若干減少しているものの、まだまだ80時間超の割合が高いのが現状である。業務の削減及び平準化への更なる工夫が必要であり、思い切った見直しが必要である。 |
| ⑧研修 | お互いの授業を見合える同僚性の構築を推進する。 | 日々の公開授業を実施し、普段から教員間で授業を見合う学校文化を形成する。 | 研究主任 | TT授業の実施や話し合い活動を通して、多様な考え方に触れるような工夫をしてきた。 | 【満足度指標】<br>教員間で授業を見合うことが日常化している。 | 先生たちはお互いの授業を見合って勉強していると感じている生徒が<br>A：80%以上　B：70%以上<br>C：60%以上　D：60%未満 | 生徒アンケート<br>（1・2学期末） | A | A | 1、2学期ともに生徒アンケートでは肯定的な回答が100%であったため、Aとした。教師のもっとも大切な仕事は授業である。経験年数等によって授業力の差はあるが、教員間の相互参観によって、よりよい授業をつくっていこうとする姿勢は生徒に伝わっていると考えられる。 |
| | 全職員の協力のもと、計画的なOJTの実施と、若手層にとって有効な研修を目指す。 | OJT等のサポートを計画的に開催する。 | 若プロ担当 | これまで行ってきたOJTを、より若手層に還元できるような形で行う。 | 【満足度指標】<br>若手層に力のつくOJTを計画的に実施することができる。 | OJT等が、計画的に開催され、若手層にとって有効であったと判断する教職員が<br>A：90%以上　B：80%以上<br>C：70%以上　D：70%未満 | 教職員アンケート<br>（1・2学期末） | D | A | 2学期にはOJTを計画的に実施することができたので、肯定的な回答は100%となった。次年度は1学期から計画的に実施することができるよう、早い段階でOJTの提案を行うようにする必要がある。 |
| ⑨保護者，地域との連携 | 積極的な学校公開や学校だより、学級だより、およびホームページ等を充実させることで、保護者・地域に開かれた学校を目指す。 | 学校だより・学級だよりを定期的に発行する一方で、行事などの際のタイムリーな発行もめざす。<br>ホームページの更新を定期的に行い、最新の情報を伝えるようにする。 | HP担当<br>教頭<br>校長<br>各担任 | 学校の様子がよくわかると、どの学年においてもおおむね評価されているが、A評価「よくわかる」の割合がまだまだ高くない。 | 【満足度指標】<br>保護者や地域に学校の様子が伝わっている。 | 学校の様子がよくわかると答えた保護者が<br>A＝肯定的な評価が90%以上，<br>「よくわかる」という評価が30%以上<br>B＝90%以上　C＝80%以上<br>D＝80%未満 | 保護者アンケート<br>（1・2学期末） | C | C | よくわかるが22.4%と上昇し、肯定的な意見が89.1%とわずかながらB評価に届かなかった。否定的な意見が6.9%と大幅に下がり全体として肯定的な意見が増えている。A評価のよくわかるが30%を達成するために、日常が見えるブログの更新など、継続的な更新が求められていると考える。 |
| ⑩教育環境整備 | 授業づくり及び業務改善のための教材教具、教育機器の充実、安全安心な教育環境を整える。 | 授業改善(1人1台PC活用)および業務改善のための教材教具、機器等の更なる整備を行う。 | 教頭 | 安全安心な教育環境と授業及び業務改善を進めるためのより充実した環境づくりが望まれている。 | 【満足度指標】<br>授業及び業務改善に必要な教材教具、機器等が整備されている。 | 授業の工夫や業務改善がしやすいように教材教具や機器、資料等の整備が行われていると感じている教職員が<br>A＝80%以上　B＝70%以上　C＝60%以上<br>D＝60%未満 | 教職員アンケート<br>（1・2学期末） | A | A | 教職員アンケートの結果、肯定的な回答が80%以上であったので、A評価とした。備品の管理や消耗品の補充等、ICTを活用した工夫を取り入れたことも業務改善につながっており、今後も更なる工夫をしていきたい。 |

| 学校関係者評価 | |
|---|---|
| | ・教員同士の授業の相互参観による成果がよく表れているので、今後も継続していってほしい。<br>・達成度判断基準が高い項目もあるので、見直してもよいのではないか。<br>・ワークバランスを大切に、更なる業務改善に取り組み、教師という仕事に魅力を感じるようにしていってほしい。 |